

第11章 1. 産業革命 c.資本主義体制の確立と社会問題

①産業革命=[1 **産業資本**]主義の確立を実現

資本主義とは=[2 **生産手段**]※を所有する資本家が、[3 **賃金**]と引換えに[4 **労働者**]を雇ってその[5 **労働力**]を購入、[6 **利潤**]を目的として[7 **商品**]※生産を行う経済システム。
労働者は支払われた[8 **賃金**]で[9 **商品**]を買って自分や家族の生活を営むことになる。

※生産手段=生産に必要な一切の物質的条件(原料・機械・土地) 商品=販売目的で生産された物

②資本家階級(ブルジョワジー)と労働者階級([10 **プロレタリアート**])の二大階級への分化

③[11 **機械制大**]工業の確立

ア)農家の[12 **家内**]工業やギルド制[13 **手**]工業の急速な没落
手工業者→土地を失った農民とともに[14 **労働者**]階級へ
※反発した手工業者ら[15 **機械うちこわし**]運動(ラダイト運動)をおこす(1810年代)

イ)[16 **産業資本家**]階級の発言権増大→政治進出をめざし[17 **地主**]や商業資本家と対立

自由主義経済学…産業革命により台頭してきたのは[18 **産業資本家**]階級である。かれらの考えかたを理論化したのが[19 **自由主義**]経済学である。その代表者である[20 **アダム=スミス**]は[21 **1776**]年「諸国民の富(国富論)」を著し経済の[22 **自由放任**]、「みえざる手による調整」と[23 **自由**]貿易、夜警国家論などを展開、「小さな国家」をもとめた。彼の立場は[24 **リカード**]やマルサスに引き継がれ[25 **古典**]学派経済学とよばれるようになる。

④[26 **労働者階級**]の増大→人口の[27 **都市**]集中がすすむ
大工業都市([28 **バーミンガム**]・[29 **マンチェスター**])・大商業都市(リバプール)の出現。
→都市問題(スモッグなど公害、人口過密など)などの発生

⑤資本家…[30 **利潤**]をもとめ、労働者に[31 **長時間労働**] [32 **低賃金**]などを強要
→[33 **労働**]問題(長時間・危険な労働、過酷な児童・女性労働など)の発生
↓
労働者による[34 **労働組合**]の結成、[35 **労働争議**]の発生など労働運動の活発化
ストライキ・団体交渉

⑥社会問題の深刻化→貧富のない社会を要求する[36 **社会主義**]思想の発展

⑦ライフスタイルの変化…[37 **農村**]的生活・価値観 から [38 **都会**]的・産業的環境へ
「日が昇れば働き沈めばおわる」 → 「時計によってしぼられる」
「住宅と仕事場は近接」 → 「生活の場と労働の場が分離=通勤の必要」
「家族で働く」 → 「夫の賃金労働の収入が中心、妻は補助収入を得る」

産業革命により安価な商品が大量に生産されるようになった。このため従来の[39 **手**]工業や家内工業は没落し、[40 **機械制大工業**]による資本主義的[41 **商品**]生産が普及し[42 **資本**]主義が確立した。

d. 産業革命による世界の変革(産業革命の波及)

①産業革命の結果

ア)工業製品の大量[43 **生産**]→広大な販売市場の必要
イ)大量の[44 **原料や材料**]の消費→供給地の必要

②イギリスは「[45 **世界の工場**]」に→世界はその対応を迫られる(世界の一体化)

ア)ベルギー・フランス、[46 **ドイツ**]やアメリカ、ロシアや[47 **日本**]などの産業革命
19世紀初頭 19世紀前半 19世紀末
イギリスの商品と対抗しつつ、経済を発展させる必要→[48 **国家**]の政策の役割大
→[49 **保護関税貿易**]や[50 **産業育成策**]などの経済政策、前提としての国家[51 **統一**]

[52 **歴史**]学派経済学…19世紀になっても、国家統一ができずイギリスから経済的におくれをとっていた[53 **ドイツ**]で発展した。代表者である[54 **リスト**]は[55 **産業育成**]策や[56 **保護関税**]貿易など[57 **国家**]の強いリーダーシップを求めた。

産業革命の結果、イギリスは[58 **世界の工場**]とよばれるようになり、大量に生産された[59 **工業製品**]を世界各地に販売、工場が必要とする大量の[60 **原料**]を世界各地から獲得しようとした。
他のヨーロッパ諸国は、[61 **安価**]で[62 **大量**]のイギリス商品の流入と対抗しながら、産業革命をすすめていかなければならなかった。このため、[63 **保護関税**]貿易や[64 **補助金制度**]といった[65 **政府(国家)**]の経済政策が大きな役割をもつようになり、とくに分裂状態が続いていたドイツでは[66 **国家統一**]の問題がいつそう切実なものとなっていった。

イ)多くのアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸民族=[67 **従属**]的経済構造へ
→[68 **世界的分業**]体制が成立([69 **南北**]問題の発生)

産業革命は大量の[70 **工業製品**]を売りさばく場を必要とし、また[71 **原料など**]を大量にかつ安く・安定的に手に入れる場を必要としようとした。そうした場として[72 **アジア=アフリカ**]などの地域を位置づけようとした。このためこの地域では日本における[73 **ペリー**]の来航にみられるように、軍事的圧力で[74 **不平等条約**]([75 **自由**]貿易)が強要された。またインドなどのように[76 **植民地**]化されたり、従属国とさせられる地域もあった。こうしたなかで、[77 **インド**]では世界最大の生産高を誇っていた[78 **綿織物業**]が壊滅、輸出国から輸入国へと変わった。多くの地域で[79 **自給自足**]型の農業が破壊され、先進国が必要とする特定の産物しかつくらせない[80 **プランテーション**]農業が拡大、輸出品が特定の農産物にかたよる[81 **モノカルチャー**]化がすすんだ。こうしてアジア=アフリカの世界は大きく姿を変え、貧困化がすすみ[82 **飢饉**]などが急増した。こうして現在の[83 **南北**]問題の基礎をつくられていく

南北問題…産業革命以来のかたよった経済発展の中で[84 **先進工業**]国(「北」)と[85 **発展途上**]国(「南」)の間のいちじるしい[86 **経済格差**]が生じ、そこから生れた問題。[87 **西ヨーロッパ**]・北アメリカ・[88 **日本**]といった経済的に豊かな国にたいし、[89 **発展途上**]国(「南」)においては[90 **貧困**]や飢え・[91 **人口爆発**]・環境破壊・難民・エイズ・[92 **政治的不安定**]といった問題が山積している現状がある。